

技術報告集によせて

「技術職員による技術報告集」を1989年に発刊して以来、今回で25回目になりました。毎年開催している技術発表会をまとめたものがこの報告書です。工学部技術部等の有志によりスタートしましたが、2008年より主催を三重大学とし、工学部のみならず、全学の教室系技術職員や事務部が一体となって実施しています。最初は小さな活動であったものが、着実に実績を重ね、ここまで大きく発展したことは関係の皆さんの努力の賜です。

三重大学では、約50名の教室系技術職員が工学研究科、生物資源学研究科、医学系研究科、教養教育機構及び学内共同利用施設等に在籍し、個々に専門的な技術をもって教育・研究支援に取り組んでいます。専門分野が異なる技術者が、お互いの考えや意見を出し合い、議論を戦わすことが自らの知識や技術の向上につながり、組織の活性化にも結びつきます。

工学部とフィールドサイエンスセンターはすでに組織化されていましたが、これまで未組織となっていた医学部、生物資源学部、教養教育機構、地域イノベーション推進機構、総合情報処理センターに所属する教室系技術職員をまとめて2016年4月に自然科学系技術部として組織化されました。

今年度開催する技術発表会では、学外からの寄稿・報告がありました。東海・北陸地区から名古屋工業大学の職員が発表することとなり、技術交流や情報交換が行われるでしょう。

本年度から第三期中期目標・中期計画が始まりました。国立大学法人においては、運営費交付金の減額や人件費削減など引き続き厳しい教育研究の環境が予想されますが、それを乗り越えた本学技術職員の積極的な自己研修への取組みは、「人財」を活かし、新たな独創性や創造性を生み出す活動に結びつくものと心強く思っております。

大学において教育・研究に携わる専門技術をもった技術職員は、教員・事務職員同様に無くてはならない存在であります。本報告集が、大学における技術職員の重要性を学内外に発信するものであると同時に、多方面の皆様にご一読の上、忌憚のない意見をいただければ幸いです。

2017年2月

三重大学長 駒田美弘